

⑩ 実用新案公報(Y2)

平5-16944

⑤ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

②④ 公告 平成5年(1993)5月7日

A 01 K 87/08

9123-2B

A 01 K 87/00

D

(全5頁)

⑥ 考案の名称 釣竿用ハンドル

② 実 願 昭62-187433

⑤ 公 開 平1-90359

② 出 願 昭62(1987)12月9日

③ 平1(1989)6月14日

⑦ 考 案 者 福 島 紀 安 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダイワ精工株式会社内

⑦ 出 願 人 ダイワ精工株式会社 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

審 査 官 郡 山 順

⑥ 参 考 文 献 特開 昭62-179329(JP, A) 特開 昭62-210936(JP, A)

実開 昭60-100979(JP, U)

1

2

⑦ 実用新案登録請求の範囲

前・後握り部間に位置し、かつ竿管を挿通したリール取付部を有する釣竿用ハンドルにおいて、前記リール取付部の上面には前後に設けたリール取付駒とリール脚取付用窪みの間にリール設置面を形成し、下部に指掛けトリガーを下向きに突出して形成すると共に、該指掛けトリガーの前方下部に竿管外周下面が露出するようにリール取付部に両側部を前後方向に形成し、かつ該両側部の前記リール設置面下側を前方部分を高く後方に向かって順次低くなるように傾斜形成したことを特徴とする釣竿用ハンドル。

考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この考案は釣竿用ハンドルに関する。

〔従来技術〕

従来釣竿用ハンドルは釣竿の竿管を囲み込むようにリール取付位置の下側が太く形成されているので、ハンドルに取り付けられたベイトキャスティング用リールを手の平の中に握った時握り難い欠点がある。

〔考案が解決すべき問題点〕

本考案は前記欠点に鑑み、リール取付部の下側に竿管が露出するようにリール取付部の厚さを薄くして露出面に指を掛けてベイトキャスティング用リールを手の平の中に安定して握り易くすると

共に、獲物の当たりによる竿管の振動を感知し易くしたものである。

〔問題点を解決するための手段〕

本考案は前記問題点を解決するために構成として、〔前・後握り部間に位置し、かつ竿管を挿通したリール取付部を有する釣竿用ハンドルにおいて、前記リール取付部の上面には前後に設けたリール取付駒とリール脚取付用窪みの間にリール設置面を形成し、下部に指掛けトリガーを下向きに突出して形成すると共に、該指掛けトリガーの前方下部に竿管外周下面が露出するようにリール取付部に両側部を前後方向に形成し、かつ該両側部の前記リール設置面下側を前方部分を高く後方に向かって順次低くなるように傾斜形成した〕ことを要旨とするものである。

〔実施例〕

以下、図示の一実施例によつて本考案を説明すると、釣竿用ハンドルは第1図、第2図で竿管1を後方握り部2内部に接着剤で接着固定し、握り部2の前側にリール取付部3が竿管1の外周に嵌合されて接着固定されている。

握り部2は合成樹脂発泡体又はコルク等で形成されている。

リール取付部3の上面には第2図、第3図のようにリール設置面3aとリール脚取付用窪み3bが形成され、下部には第1図、第2図、第4図の

ように指掛けトリガー 3 c が下向きに突出形成されている。

更にリール取付部 3 には竿管 1 を両側から挟むように両側部 3 d, 3 e が前方に延びるように、かつ前方部分が竿管 1 の略中心軸線より高く、後方部分が低くなるように傾斜して形成されている。

両側部 3 d, 3 e の上側と下側には夫々長孔 3 f, 3 g が形成されて各図のように竿管 1 の上面 1 a と下面 1 b が露出されている。

前記リール取付部 3 の両側部 3 d, 3 e の前側に竿管 1 を抱持すると共にリール脚取付駒 4 を回り止めする抱持部 3 h が形成されている。

抱持部 3 h の前側には図示しない雄螺子部が延長形成されて竿管 1 に固定され、雄螺子部の外周にリール脚取付駒 4 を前後動する雌螺子が螺合され、雄螺子の外側に後方握り部 2 と同材の合成樹脂発泡体又はコルク等の前方握り部 5 が固定されている。

リール取付部 3 に第 2 図、第 7 図のようにリール 6 の取付板 7 が取り付けられる時は、リール設置面 3 a に取付板 7 が載せられ、リール脚取付用窪み 3 b に取付板 7 の一側が挿入され、他側はリール脚取付駒 4 で押えられて取り付けられる。

前記のように釣竿用のハンドルが構成されてキャストイング時は、指掛けトリガー 3 c に人差し指が掛けられ、後方握り部 2 が握られてキャストイングされる。

この時リール設置面 3 a は竿管 1 に近く形成されているのでリール 6 の高さが低くなってパミ

ングがし易い。
又、第 7 図のように手の平の中にリール 6 が握られる時は、竿管 1 を挟む両側部 3 d, 3 e は前方部分が高く、後方部分が低くなるように傾斜して形成され、竿管 1 の下面 1 c が露出するようにリール取付部 3 の厚さが薄く形成されているので人差し指と中指と薬指が深く竿管 1 に当たるように握ることになり、握り易く、かつ安定して握ることが出来る。

更に人差し指と中指は竿管 1 の下面 1 c に直接触れているので獲物の当たりによる振動を感知する感度が高くなって釣竿とリールの操作時期を逸

することがないので漁獲成績を高めることが出来る。

又、リール取付部 3 の両側部 3 d, 3 e は前方部分が長く、後方部分が低く形成されて下側は竿管 1 の下面 1 c が露出するから、指掛けトリガー 3 c に指を掛け、ハンドルが握られると親指の位置が高くなり、リール 6 のクラッチレバー 8 に掛ける親指の位置が操作し易い位置となる。

前記リール 6 の取付板 7 は竿管 1 の上面に直接載るようにリール設置面 3 a を形成してもよい。

更に指掛けトリガー 3 c の前側を肉厚に形成してハンドルの強度を強化してもよい。

前記説明では竿管 1 の外周に直接後方握り部 2 を固定したが、リール取付部 3 を後側に延長してその外周に後方握り部 2 を固定してもよい。

〔考案の効果〕

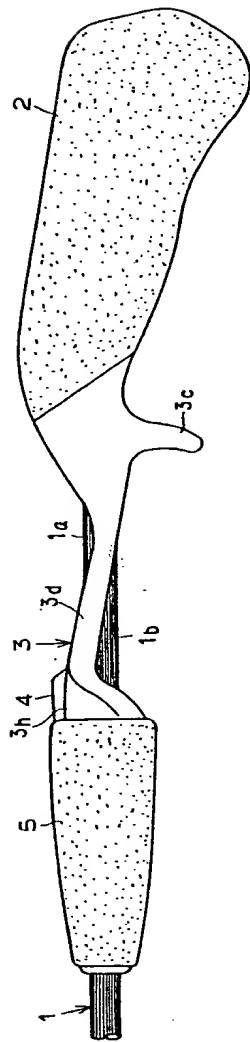
本考案は前述のように構成されたから、リール取付部の下部に竿管外周下面が露出してリール取付部の厚さが薄く、かつリール載置面下側を前方から後方に順次低くなるように傾斜形成したから、手でハンドルとリールを側方から算定して握持しやすく、リール操作がしやすくなる。又、竿管の振動を直接感知することが出来るので獲物の当たりに合わせて釣竿とリールの操作時期を逸することがないので漁獲成績を高めることが出来る等実用上優れた効果を奏する釣竿用ハンドルを提供することが出来る。

図面の簡単な説明

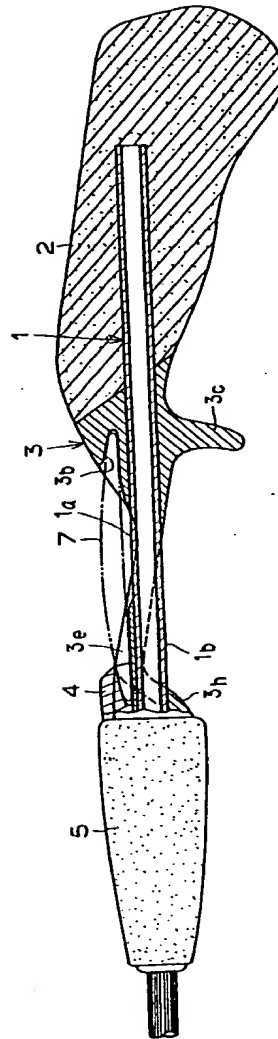
図面は本考案の一実施例が示され、第 1 図は釣竿用ハンドルの要部側面図、第 2 図は釣竿用ハンドルの断面側面図、第 3 図は釣竿用ハンドルの平面図、第 4 図は釣竿用ハンドルの裏面図、第 5 図は第 3 図の V-V 線断面背面図、第 6 図は第 3 図の VI-VI 線断面背面図、第 7 図は手の平の中にリールを握った釣竿用ハンドルとリールの側面図である。

1 ……竿管、1 b ……下面、2 ……後方握り部、3 ……リール取付部、3 a ……リール設置面、3 b ……リール脚取付用窪み、3 c ……指掛けトリガー、3 d, 3 e ……両側部、5 ……前方握り部。

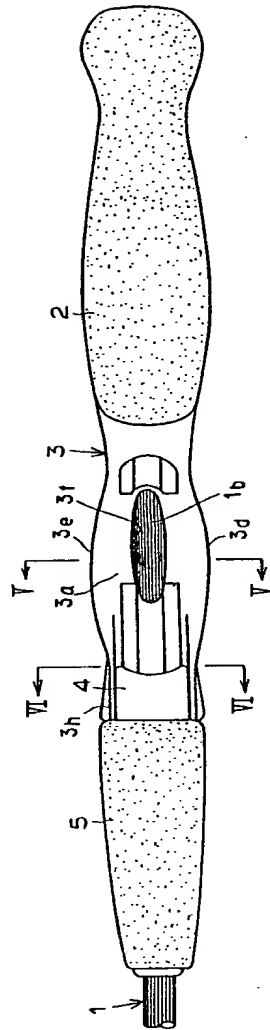
一无



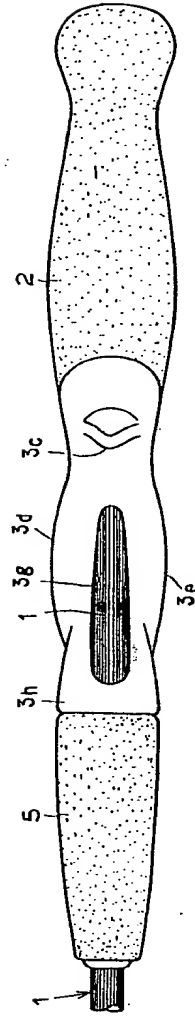
第2区



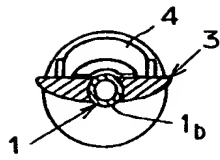
第3図



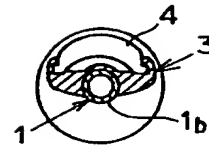
第4図



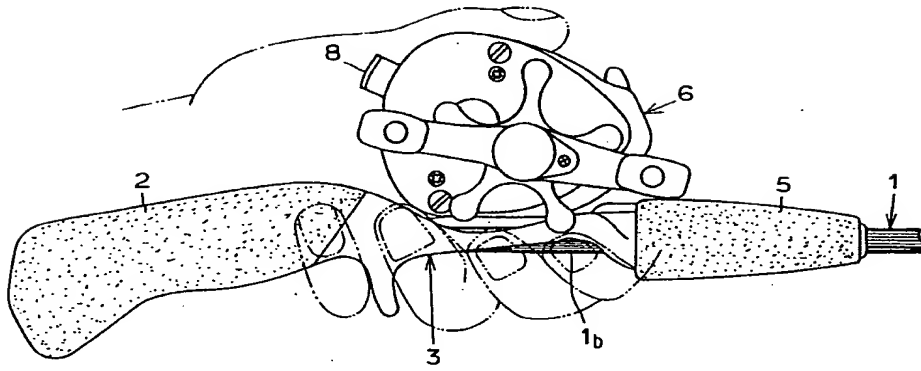
第 5 図



第 6 図



第 7 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)
